

ジカ熱(ジカウイルス感染症)を知っておこう

▼ ジカウイルス感染症とは？

ジカウイルスは、1947年にアフリカのウガンダの「ジカの森」のアカゲザルから初めて見つかったため、その名がついています。その後蚊やヒトからも確認されて、蚊に刺されることによってヒトが感染することがわかりました。このウイルスを運ぶ蚊は、熱帯地域ではネツタイシマカという種類ですが、日本に棲息するヒトスジシマカ（いわゆるヤブ蚊）もこのウイルスを媒介できます。

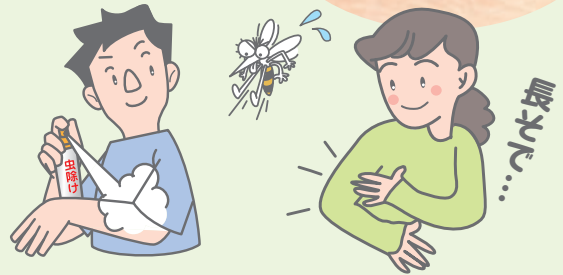
このウイルスを持った蚊に刺されると、体内にウイルスが入り、通常は3～12日くらいで発熱、発疹、結膜炎、頭痛や筋肉痛の症状で発症しますが、症状としては軽く、2～7日程度で自然によくなります。感染したとしても、このように症状が出るのは全体の20～40%程度で、60～80%はほとんどなにも症状はでません（無症候性感染と言います）。症状の強弱にかかわらず、感染したヒトは発症後3～5日間は血液中にウイルスが存在し、この間に蚊が吸血すると、刺した蚊はウイルスに感染し、その蚊が他のヒトを刺すことによって感染が広がります。

▼ どうして最近、急に問題になったのでしょうか？

最初に発見された後、1960年から2000年にかけてアフリカや東南アジア諸国に広がりましたが、感染者は少なく、基本的に自然に治る軽い疾患でしたので、特に問題になりませんでした。しかし、2007年頃から西太平洋の島々で患者が多発するようになり、特に2013年にフランス領ポリネシアでは、住民の70%が罹患し、一部の患者でギランバレー症候群という神経が麻痺する症状がでたため世界の注目を浴びました。

2015年になって、それまでこの疾患がみられていなかった、南米のブラジルで、7,000人以上の患者が発生しました。また、この疾患に罹患した人の中から、上述のギランバレー症候群が多発すると

ヒトスジシマカ▶
(国立感染症研究所ホームページより)



もに、ジカ熱にかかった妊婦さんから生まれた赤ちゃんに小頭症という、脳の発達障害によって頭が極端に小さくなる障害が多数見つかりました。また、一方ではウイルスに感染した人間や蚊が国際的に移動し、これまでほとんどこの感染症のみられなかった中南米地域に急速に広がったこともあり、このウイルスが他の国に広がり、健康被害が更に拡大する懸念から、世界保健機関が国際的な公衆衛生上の緊急事態であると宣言するに至りました。

▼ 感染を予防するためにはどうしたら良いのでしょうか？

現在のところ日本にはこのウイルスは存在していませんので、海外の流行地に行かない限り心配はありません。現在このウイルスがひろがっている中南米などの地域に渡航する場合には、蚊に刺されないような対策をしてください。

特に妊婦さんや妊娠の可能性のある方は流行地への渡航を控えてください。また、無症候性感染も非常に多いので、流行地から帰国された方は自分がウイルスを保有している可能性のあること、また、ウイルスは精液中に長期間潜み、ここから感染伝播する可能性があることを自覚し、特に妊娠中の配偶者がみえる場合にはご注意ください。（流行地の詳細については厚生労働省のホームページでご確認ください。）

<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000109881.html>

(小児科 谷口 清洲)